

修士の学位申請に関する手続き及び修士論文審査体制・基準等について

1 修士の学位

博士課程前期課程に所定の期間在学し、当該研究科所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたのち、当該課程の目的に応じ、修士論文または特定の課題についての研究成果の審査及び試験に合格した者は、その課程を修了した者とされ、修士の学位が授与されます（大学院学則第 24 条、第 26 条）。

2 修士論文審査体制・方法

(1) 審査体制

修士論文の審査は、研究科委員会の定めた審査委員によってこれを行います。

審査委員は、当該修士論文に関連ある研究領域の教員 3 名以上とし、主査を 1 名、副査を 2 名以上とします。ただし、特別の事情がある場合には副査を 1 名とすることがあります。

(2) 審査方法

ア 最終試験

修士の学位に関する最終試験は、審査委員が主に修士論文に示された研究成果を確認する目的をもって、公聴会形式で行います。

イ 審査期間

修士論文の審査及び最終試験は、当該修士論文の提出期限後 3 カ月以内に終了します。

ウ 審査結果

修士論文の審査及び最終試験の結果は、研究科委員会の承認を得て決定します。

3 修士論文審査基準

(1) 修士論文は、広い視野に立った精深な学識と専攻分野における研究能力を示すに足るものをもって合格とします。

(2) 修士論文の審査にあたっては、以下の審査項目をふまえて、総合的に評価します。

ア 研究テーマが明確であり、独自の知見と学術的価値が認められること。

イ 研究テーマに基づいて適切に問題が設定され、一貫した論理展開によって妥当な結論が導かれていること。

ウ 研究目的にふさわしい研究手法がとられ、資料やデータの利用と解釈が適切に行われていること。

エ 先行研究や関連した研究が十分に調査され、的確な考察がなされていること。

4 修士論文提出要件

修士論文は、学位規程第 9 条に基づき、博士課程前期課程に 1 年以上在学し、所定の授業科目のうち、20 単位以上を修得後に学位取得計画書を提出した後でなければ提出することができません。

5 修士論文計画書の提出について

(1) 提出期限は厳守すること。提出期限後はいかなる理由があっても受理しません。

(2) 修士論文計画書提出に際しては、主担当指導教員の承認を得てください。

(3) 既に提出した論文計画の変更は、認められません。ただし、論文提出以前においては、主担当指導教員の承認を得て「論題変更届」を提出することができます。

(4) 計画書を提出したが、修士論文を提出しない場合は、指導教員の承認を得て「修士論文提出の辞退について」を堺キャンパス事務室へ提出してください。

6 提出予定修士論文・論文要旨の予備審査

予備審査書類の提出要領は、別紙「人間健康研究科修士論文の提出について」を確認してください。